# 大橋ゆか子学長　ご退職にあたって

山縣　朋彦

大橋ゆか子先生は昭和40年東京大学理学部化学科を卒業され，東京大学大学院理学系研究科に進み，昭和45年に同博士課程を修了し，東京大学から理学博士の学位を授与されました．大学院生時代は東京大学物性研究所で過ごされました．物性研究所は当時，生産技術研究所と共に港区六本木の繁華街の真ん中にあったので，20代の頃は文字通りの六本木ギャルだったのかと不謹慎なことを想像しました．

学位取得後は，理化学研究所で，金属錯体光励起の研究を中心に御研究をすすめられました．文教大学には，昭和52年に教育学部助教授として着任されました．昭和51年に立正女子大学が，文教大学に名称変更し，翌年の昭和52年から現在の男女共学の大学として正式にスタートしたので，先生はまさに，文教大学35年の発展をつぶさに見続けられていたことになります．昭和58年に教授になられ，平成13年から21年まで教育学部長，平成21年からは学長として，教育学部，そして，文教大学全体の発展に貢献されました．この間，平成18年に設置された大学院教育学研究科の開設にはひとかたならぬご尽力をいただきました．また，教育学部のある越谷市との関係では，越谷市科学技術体験センター（ミラクル）には設立当初から運営委員として，関わっておられます．

現在，教育学部は，全国各地の小中高校へ教員として数多くの卒業生を輩出し，確固たる地位を固めつつあります．これも35年にわたる大橋先生のご尽力のたまものと思っております．先生の後塵を拝する我々は，先生の創られた文教大学教育学部の評価を維持発展させなければいけないと思うと共に，先生には今まで通りに，我々をご指導いただくことをお願い致します．

（やまがた　ともひこ　文教大学教育学部学校教育課程理科専修主任）